

ESAの「invalid tagname or tagvalue in DNS TXT record」または「invalid value for DNS TXT record」のトラブルシューティング

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Eメールセキュリティアプライアンス(ESA)で作成され、ドメインネームサーバ(DNS)に実装する必要があるDomainKeys Identified Mail(DKIM)2048キー長のシグニチャについて説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ドメインキー署名キー
- ドメインキー署名プロファイル

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

背景説明

署名キーを作成するときは、キーサイズを指定します。鍵サイズが大きいほど安全性が高くなります。ただし、キーが大きいとパフォーマンスに影響する可能性があります。

署名キーをドメインプロファイルに関連付けると、公開キーを含むDNSテキストレコードを作成できます。これを行うには、ドメインプロファイル列の[DNSテキストレコード(DNS Text Record)]列にある[生成(Generate)]リンクを使用します。

図に示すように、[Signing Keys] ページの[View]リンクから公開キーを表示することもできます。

Name	Key Size (Bits)	Public Key	Domain Profiles	Delete
key1	1024	View	key1	<input type="checkbox"/>

問題

ESAでDKIM 2048シグニチャが生成される場合のDNSエラー「invalid tagname or tagvalue in DNS TXT record」または「invalid value for DNS TXT record」。

ESAから設定を検証します。

[Mail Policies] > [Signing Profiles] に移動します。

解決方法

次の2つのオプションを確認します。

a)セレクトタイプ：

セレクトは、特定のドメインに対して複数のDKIM DNSレコードを許可するために使用される任意の文字列です。セレクトの値と長さは、DNS名前空間と電子メールヘッダーで有効である必要があります。ただし、セミコロンを含めることはできません。名前空間を持つセレクトの例：

san.mateo._domainkey.example.com boston._domainkey.example.com

b)一部のDNSでは、このサイズを受け入れるために追加の回線または設定が必要です。

DNSにレコードをアップロードするときにレコードの中央に生成された引用符「」を削除するか、レコードを別の行に追加して余分な引用符を削除します。



注：ESAアプライアンスは、512ビットから2048ビットまでのキーをサポートします。指定されたDNSを検証します。

DNSプロバイダー、ESAがDKIM 2048の長さシグニチャを提示する方法、およびDNSコントロールパネルがレコードを解釈するとDKIM検証またはTXTレコード内の設定に対してエラーが生成される方法によって異なります。

関連情報

- [Eメールセキュリティアプライアンスユーザガイド](#)
- [DKIM署名設定](#)
- [ベストプラクティスESA:SPF DKIM DMARC](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)

BJBはBDBバックエンドに接続できませんでした。Cisco Internal Network に接続していることを確認してください。接続している場合は、BDBを開いて認証クッキーを更新してください。[閉じる]

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。